

「電設工業展」で展示

新製品を一斉に発売

アネックスツール(株) (新潟県三条市、兼古敦史社長) は5月24日に「ダイヤモンド龍靱ビット」シリーズの「スリムタイプ (ADDRS)」の新サイズと「タフ (ADDR)」, 「絶縁ビット (AZM)」の新サイズ, 「スリム絶縁ドライバー (No. 7900)」の「ロングサイズ」, 工具箱「タフケース (ATCRK)」に対応した「タフケース用トレー (ATCT-T)」を発売した。また5月29~31日に東京ビッグサイト (江東区) で開催の「第72回電設工業展 (JEECA FAIR 2024)」に出展し、これらの新製品を展示した。



「電設工業展」出展時のブース

「龍靱ビット (ARTM)」は本体中央部分にトーションを設ける事により電動ドライバー使用において締結完了した瞬間の衝撃を吸収してカムアウトやドライバー・ねじに掛かる負荷を予防する20年以上のロングセラー品となっている。今回はビット先端にダイヤモンド粒子を付けてねじの脱落 (こぼれ落ち) 防止の効果を発揮する「ダイヤモンド龍靱ビット」において、先端を細い形状にして作業しやすくしている「スリムタイプ (ADDR)」の新しいサイズと、折れにくい「タフ (ADDR)」を発売した。



ダイヤモンド龍靱ビットの新製品

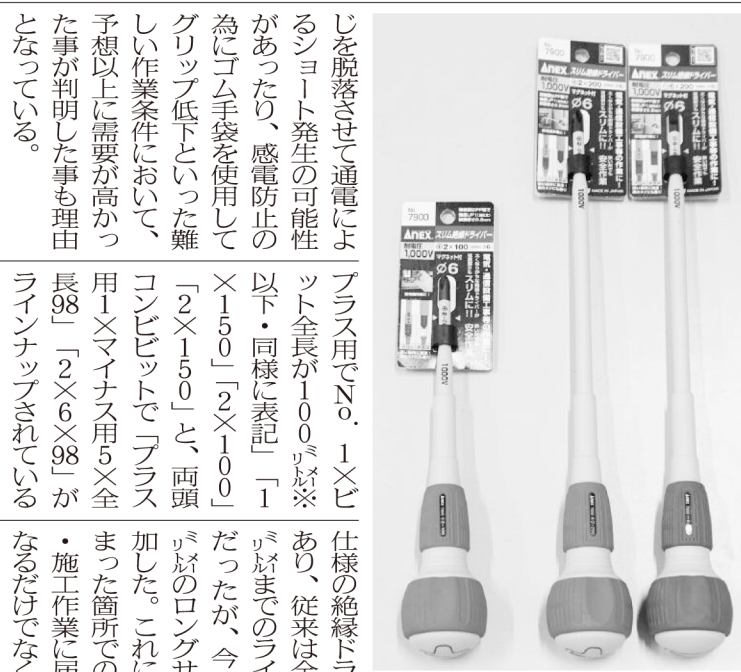
「龍靱ビット」は昨今のバッテリーやモーターの性能向上で高スピード・高トルク化が進んだ事に対応する為、トーションだけでなく形状・鋼種や焼入れ条件等の変更を進め改良した様々な新製品を開発してきた。その一例として「龍靱ビット」の先端表面に無電解ニッケルめっきダイヤモンドコーティングをした製品が「ダイヤモンド龍靱ビット」となっている。

ねじ締結の場面において、ねじがビットから脱落する対策として従来マグネットにより吸着させて防止する例があったが、この場合は非磁性の真鍮製・ステンレス製・樹脂製ねじは対応していない。この対策として目の細かい紙やすりのような触感のダイヤモンドコーティングを施したビットがねじに喰らいつつも、事で脱落防止に効果を発揮する。

この「ダイヤモンド龍靱ビット」において「スリムタイプ」は先端を細くする事で締結作業時にねじ頭部が見やすく、かつねじ頭部の穴にビット先端が確実に刺さっている事が見やすい仕様となっている。当初は2022年末に「ビット」先端の刃先がN. 2×ビット全長が65mm以下・同様に表記「2×85」「2×110」の3種をラインナップし

ダイヤモンド「スクエア」タイプ

ダイヤモンド粒子で脱落防止



絶縁ドライバー (左がスリムタイプ、右の2点が新製品のロングサイズ)

て発売開始して、一時生産が間に合わず受注停止になるほど好評となったが、23年夏には安定生産できるように体制を強化して対応している。今回はより全長の長い「2×150」と、より先端の刃先の幅を細くした「1×65」「1×110」を追加した。

また「スリムタイプ」と違い先端を太くして「カケにくく」折れにくい、高強度仕様にした「タフ」も発売しており、こちらは「2×65」「2×85」「2×110」「2×150」をラインナップしている。「電設工業展」開催時期に合わせて発売・展示したのは、「ダイヤモンド龍靱ビット」が当初は水道配管・雨樋といった屋外に設置された水回りでの錆対策としてステンレス製の締結作業を想定していたが、それだけでなく電気工事における配電盤 (ブレーカーやスマートメーター) で真鍮製ねじが使用される事が多く、配電盤内部でね

じを脱落させて通電によるショート発生の可能性があったり、感電防止の為にゴム手袋を使用してグリップ低下といった難しい作業条件において、予想以上に需要が高かった事が判明した事も理由となっている。「絶縁ビット (AZM)」はビット先端と軸 (根本) 部分に樹脂製連結部を設けて、電気工事での使用時に誤ってビット先端に電気が通っても加した。今回追加した背景としては電気工事での制御盤をはじめとして、ブレーカー等に使われるM6、M8のねじの為にプラス3を、またプラスマイナスねじのプラス部分がなめらかな場合を想定してマイナスのコンビビットを発売した。「スリム絶縁ドライバー (No. 7900)」は軸部分の先端手前から細軸 (スリム) となった



タフケースのバックルは2種類の開け方が可能



タフケース用トレー

既に片頭ビットで「ビット先端の刃先の形状が

より50mm長い分、より届きやすく、視界が確保され、気中放電による感電防止も期待できる。「タフケース (ATCRK)」は同社オリジナルの工具箱で厚い樹脂製の為1トの荷重にも耐える高強度仕様。内寸で高さ55mmと深目の設計だった為、ユーザーの意見を反映して内蓋 (仕切り) とする専用の「タフケーストレー (ATCT-T)」を発売した。「タフケース」の外寸はW190mm×D135mm×H63mm、内寸はW176mm×D105mm×H55mmで、同程度のサイズで一般的な樹脂製ケースでは樹脂の肉厚が約1.4~1.5mmに対し、「タフケース」は約3.0mmと厚く高強度で、上面全体に荷重をかけた場合1トの荷重にも耐える仕様となっている。



絶縁ビット新製品

「絶縁ビット」は前述の通電防止以外に、もし過大な負荷がかかったとしても、ビット先端が先に壊れる事で、連結部に壊れる事で、連結部 (耐衝撃性に優れたポリカーボネート) は壊れない造りで、破損時にも絶縁性を保持する設計で使用者の安全を確保する。

「タフケース」の専用切り (内蓋) とする専用の「タフケーストレー」を販売する事となった。